

はせさんず

2020 秋号 NO.91

ニュース

2020年10月20日(火)発行

NPO法人たすけあい大田はせさんず

理事長 棧敷 洋子

〒146-0082 東京都大田区池上4-28-3

はせさんず(会員制) 03-5747-2610

ヘルパーステーション 03-5747-2816

ケアサポート 03-5747-2800

デイホーム 03-5747-2660

元気かい 03-5747-2605

FAX専用 03-5747-2620

はせさんずは会員制のたすけあいの会です。入会随時受付!

NPOの非営利活動にご寄附ご支援をお願いします



車両の消毒作業

車両の消毒作業
にも注意
うようお
願ひして
います。

不要不急の外出を控えるよ
うにとの緊急事態宣言が出た
後も、たすけあいの移送サー
ビス(福祉有償運送)は変わり
なく活動を継続しています。
利用者が病院での感染を恐
れて通院を自粛したり、買物
を控えたりして、利用が減少
した時期がありました。4月
は196時間、5月は210
時間、6月は343時間、7
月は358時間と、前年同月
と比較し、37%、42%、64%
と増加という状況です。

しかし、活動会員からは感
染を理由に活動中
止の申し出はありません。移
動困難者に対するボランティア
は、医療や介護と同様に重
要と理解しているからです。
活動会員の皆さんには次の
ように方針を説明し、理解を
求めました。

・サービス中のマスク着用
・サービス前に手指をアルコー
ル消毒する
・サービス終了後に車両の消
毒をする
事業所から携帯用のアルコー
ル消毒剤を配付し、安全運転
と同時に
感染防止
にも注意
してもら
うようお
願ひして
います。

■発熱者への通院同行
4月、訪問したヘルパーか
ら「利用者が熱があります」
と連絡が入りました。担当ケ
アマネジャーが速やかに主治
医に連絡をすると診てくれる
とのこと。消毒液、マスク、
手袋、防護服代わりのレイン
コートを用意して利用者宅に
向かいました。万一コロナ感
染ならヘルパーもケアマネも
感染の可能性があると思うと
次にすべき行動を模索し続け
ました。一般外来が終わるま
で病院外で待ち受診、X線結
果は軽度肺炎で帰宅してよい
とのこと、予想していたとは
いえ正直ほっとしました。

■サービス自粛の影響
一方、私たちが市中からの
感染要因となつてはいけな
いと訪問を自粛した月。休業し
たデイサービスもあったし、
3密を回避するために通所利
用の時短や減回を
お願いした利用者
もあり、残念ながら身体機能
の低下が現実になってしまっ
た人もいました。ケアマネと
して何を調整できるか悩む日々
でした。

■近づく介護崩壊を心配
心配だったのは利用者が微
熱時にコロナ感染の疑いが少
しでもあれば、訪問看護師は
行けないと言われたこと。当
時は、保健所に電話はつなぐ
ても即日検査はできなかった。
それでもオムツ交換のサービ
スに向かつてくれた訪問ヘル
パーがいて、本当にありがた
かった。「介護崩壊」の文字
が報道されるなか、利用者も
介護職も家族介護者も最大限
の感染防止策に努めながらの
日々を送っていました。

■オンライン研修
7月、感染者数は連日3桁

移送サービスは介護と同じに重要

移送サービス管理者 内山 善太

不安を暴走させずコロナと向き合う

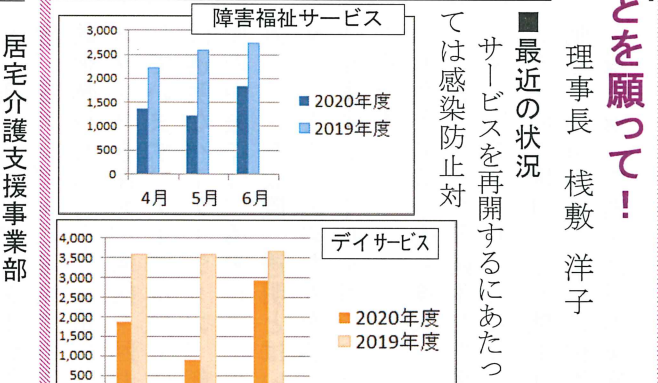
ケアサポート管理者 清水 桂子

理事会 棧敷 洋子

理事 清水 桂子

マスクの生活にも慣れ、東
京都の感染者数に一喜一憂す
ることもなくなってきた半面、
常に新型コロナウイルスに緊
張する毎日です。

■4月から6月にかけて
はせさんずでは、各事業所
の責任者を中心に話し合いな
がら、手探りの状況のなか、
サービスを縮小したり、事業
所での職員の密集を避ける対
策をとったりしてきました。
介護保険の訪問介護ではほ
うの職員が中絶となり
た。その結果、事業収入はグ
ラフのように激減しています。



■最近の状況
サービスを再開するにあたつ
ては感染防止対
策の徹底を図っていますが、
10月に入り、近隣の介護保険
事業所に感染者が出ている状
況をみると、はせさんずも影
響を受ける可能性を否定でき
ません。感染した利用者
が2か所のデイサービス
に通っていたり、その利
用者宅にヘルパーが訪問
したりすることが想定さ
れるからです。そのよう
なケースもふまえて冷静
に、感染を拡大させない
方法を事業所全体で共有
し、支援を継続していき
たいと思います。

■コロナと向き合う
コロナ禍でも風水害は起き
る。「大田区ハザードマップ
改訂版」では避難箇所が23か
所から89か所に増設されたの
で、自分の家族や命を守る避
難行動を改めて考えてみてほ
しいと思います。一人暮らし
や移動に不安のある人は、ケ
アマネと一緒に考える時間を
持つてはどうかと提案したい。
不安を暴走させないで、今
日も手洗い、うがい、マスク
をしましょう。十分な睡眠と
食事を摂りましょう。ゆっく
り呼吸する、目を閉じて口を
ポカんと開けて首を回す、と
いうのもよいそうですよ。



オンライン研修のケアマネジャー

介護保険訪問介護・障害福祉サービス事業部 リスクのなかでサービスを継続 ヘルパーステーション管理者 榎拓巳



2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催に胸を膨らませながら迎えた年は、新型コロナウイルス流行が世界や日本を震撼させました。最近では新型コロナウイルスに関してわかってきたこともありますが、拡大の当初は何が正しく何が誤りなのか情報が錯綜し、情報収集に神経を使いました。

■マスク着用とアルコールの手指消毒が有効とのことではせきさんは、感染拡大前からヘルパーに携帯用の石鹸とアルコール消毒剤を配付しており、手洗い、消毒を徹底するよう重ねて伝えました。ところが、補充しようとした消毒剤やマスクは売り切れでどこも在庫がない。これじゃヘルパーに配れないと焦りました。マスクの不足時期には手作りマスクを寄付してもらったり、スタッフの知り合いの業者を紹介してもらったり、必死で乗り切りました。

■ステイホームの緊急事態宣言下でサービスの縮小
不要なサービスなどあり得ないものの、利用者への感染を防ぐにはどうするかサービス提供責任者が何度も話し合いました。

①介護保険訪問介護ではケアマネジャーと相談して訪問回数を減らし、一部サービスを中止する、②外出介護する移動支援では特にリスクが高くなるため、家族と相談してサービスを中止し、どうしても必要な支援は時間を短縮、外食や電車利用を避けて対応しました。

■事務所内の密集を防ぐ
自転車を使用するヘルパーは不特定多数と接する機会が少ないのが利点です。

■PCR検査の体制拡充を
今後は介護職などエッセンシャルワーカーのPCR検査受け入れ体制の拡充、医薬品などが必要な人に届くしくみなど、安心してサービス提供できる施策を希望します。

■発熱した利用者への対応
発熱はコロナ感染とは限りませんが、原因が明確でない場合は感染を疑わないわけにいきません。発熱した利用者への対応は大変苦勞します。

■サービスマスクの着用練習
施設にシャワーを浴び着替えるなど対策をしましたが、不安はぬぐえず、後に陰性とわかり本当にほっとしました。

■サービスマスクの着用練習
現在はサービスを緊急事態宣言前の状態に戻しています。

■苦渋の決断の縮小運営
振り返れば、緊急事態宣言下では、苦渋の決断で縮小運営に踏み切りました。

■3密回避のために
世の中では新しい生活様式が推奨されましたが、デイホームも大きく変えました。

■外出の方法を工夫
最も大きな変化は外出活動。これまで午後には全員で外出していましたが、午前と午後の2部制に変更して、デイ内の密集を回避。

■本格再開はいつ？
新型コロナウイルスの大流行が始まりすでに9か月、今年には外出自粛と3密防止、マスク着用などで息苦しい日々を過ごしてきました。

■事務局だより
今年のフリーマーケットは中止となりました。

■今年度のフリーマーケットは中止となりました。



防護服の着用練習

■3密回避のために
世の中では新しい生活様式が推奨されましたが、デイホームも大きく変えました。



消毒

■事務局だより
今年のフリーマーケットは中止となりました。

■PCR検査の体制拡充を
今後は介護職などエッセンシャルワーカーのPCR検査受け入れ体制の拡充、医薬品などが必要な人に届くしくみなど、安心してサービス提供できる施策を希望します。

■外出の方法を工夫
最も大きな変化は外出活動。これまで午後には全員で外出していましたが、午前と午後の2部制に変更して、デイ内の密集を回避。

■本格再開はいつ？
新型コロナウイルスの大流行が始まりすでに9か月、今年には外出自粛と3密防止、マスク着用などで息苦しい日々を過ごしてきました。

■事務局だより
今年のフリーマーケットは中止となりました。

■苦渋の決断の縮小運営
振り返れば、緊急事態宣言下では、苦渋の決断で縮小運営に踏み切りました。

■3密回避のために
世の中では新しい生活様式が推奨されましたが、デイホームも大きく変えました。

■外出の方法を工夫
最も大きな変化は外出活動。これまで午後には全員で外出していましたが、午前と午後の2部制に変更して、デイ内の密集を回避。

■事務局だより
今年のフリーマーケットは中止となりました。

■PCR検査の体制拡充を
今後は介護職などエッセンシャルワーカーのPCR検査受け入れ体制の拡充、医薬品などが必要な人に届くしくみなど、安心してサービス提供できる施策を希望します。

■外出の方法を工夫
最も大きな変化は外出活動。これまで午後には全員で外出していましたが、午前と午後の2部制に変更して、デイ内の密集を回避。

■本格再開はいつ？
新型コロナウイルスの大流行が始まりすでに9か月、今年には外出自粛と3密防止、マスク着用などで息苦しい日々を過ごしてきました。

■事務局だより
今年のフリーマーケットは中止となりました。